

ひろしまネウボラの取組状況について

1 要旨・目的

子育てに関する不安や負担を軽減し、子供を希望する人が安心して妊娠・出産・子育てできる環境整備に向けて、地域の関係機関と一体となって、妊婦や子育て家庭の不安や悩みに寄り添い、見守り、支援する仕組みである「ひろしまネウボラ」の構築を進めており、令和6年度の評価検証結果及び今後の取組の方向性について報告する。

2 現状・背景

- 令和7年度における「ひろしまネウボラ」の実施市町は21市町となっており、令和11年度までに全市町で実施されることを目指している。
- 「ひろしまネウボラ」の全県展開にあたっては、その機能や価値を市町や県民に浸透させるとともに、取組の評価検証を実施し、市町における取組の改善・強化につなげる必要がある。
- ひろしまネウボラの取組をさらに加速させるため、令和6年度に、強化すべき取組の方向性を定め、人材育成研修による利用者視点に立った面談対応力の向上や、第一子妊娠期の子育て家庭への支援強化の検討、関係機関と連携した広域的な支援の仕組みの構築の検討を進めている。

3 概要

(1) 対象者

県内市町、県民（主に就学前の子供を育てる保護者）

(2) 取組内容

「ひろしまネウボラ」の取組が「子育てに対する安心感の醸成」につながっているかを検証し、市町における取組の改善・強化につなげるため、令和3年度から重点的に実施している取組ごとに指標を設定し、市町からデータを収集し、モニタリングを行っている。（下記（5）参照）

(3) スケジュール

—

(4) 予算（令和7年度）

145,950千円

(5) 事業効果・検証結果の主なもの（令和6年度）

ア 完全な全数把握（アプローチ率100%）の実施

【指標】面談対象者のうち、状況を把握することができた人数の割合（令和7年6月末現在）

コンタクトタイミング	令和6年度	
	全数把握率	(参考) 自主的面談参加率
母子手帳交付	100%	99.80%
乳児家庭全戸訪問	99.92%	97.60%
乳児前期健診（4か月頃）	99.89%	91.80%
1歳6か月児健診	99.88%	90.37%
3歳児健診	99.72%	90.19%

【結果】市町職員の働きかけ（個別のアプローチ）などにより、5回全てのコンタクトタイミングにおいて99%以上の状況把握ができている。

イ 関係機関との連携

【指標】 関係機関との情報の共有方法が確立されている市町数

ネウボラ実施市町	共有方法が 確立されている市町
18 市町	18 市町

【結果】 全てのネウボラ実施市町において、医療機関や園所など、関係機関との情報の共有方法が確立されている。

※ 具体的な連携状況を把握できる新たな指標については、関係機関連携の強化と合わせて検討を行う。

ウ 担当者による継続した面談～利用者との信頼関係の構築

【指標】 出産や子育てに不安や悩みがあるときの相談先として思い浮かべる人の割合

ネウボラ相談員		20.5%
(参考) その他の想起した人の割合	家族や親族	62.0%
	友人・知人	56.5%
	幼稚園・保育所・認定こども園等の先生	25.1%
	かかりつけの医師	17.9%
	職場の同僚	17.7%

【結果】 相談先としてネウボラ相談員を想起する人は20.5%と低いものの、「幼稚園・保育所・認定こども園等の先生」に次いで想起されており、家族や友人などの親しい間柄以外の相談先の中では高い割合となっている。

4 今後の対応

- 評価検証の結果をネウボラ実施市町と共有し、市町におけるネウボラ業務の改善・強化を図る。
- 関係機関との連携については、市町のつなぎ先の確保・充実に向けて、引き続き市町や関係機関と広域的な支援の仕組みの検討を進める。
- ネウボラの認知促進については、ネウボラのブランディング、ツールを活用したPR、広報に取り組み、引き続き来所の促進や認知向上を図る。
- 全県展開に向け、「ひろしまネウボラ」の取組の成果を見える化した上で、未実施の市町に対して対話と伴走型支援を行っていく。